

# 「朝河貫一没後70年記念事業」実施報告

今年度「ふくしまの未来をひらく図書館事業」として没後70年を迎えた本県出身の国際的歴史学者朝河貫一博士の偉大な功績を周知するため、下記の事業を実施した。

## 1 当館ホームページ「郷土の偉人・朝河貫一没後70年」の開設

開設日：平成30年4月27日（金）～

内容：①人物紹介

②年譜

③特殊コレクション「朝河貫一資料」の紹介  
及び目録の公開



## 2 企画展「海を渡ったサムライ～朝河貫一没後70年記念展」の開催

### (1) 概要



当館所蔵の「朝河貫一資料」の書簡や著作等を中心に、53点を展示

朝河博士の生涯を辿り、大隈重信、伊藤博文、野口英世ら著名な人々との交流を中心に書簡や人物紹介を展示したほか、「昭和天皇宛大統領親書草案」や「朝河をいろうった女性たち」のテーマで展示を行った。企画全体に関して、甚野尚志氏（早稲田大学文学学術院教授）の監修をいただいた。

### (2) 開催期間

平成30年6月8日（金）～9月5日（水）77日間

（前期：6月8日（金）～7月16日（月） 後期：7月18日（水）～9月5日（水））

### (3) 来館状況

入館者数 55,143名（1日平均716名）

### (4) オープニングセレモニーの実施

開催日・会場：平成30年6月8日（金）11:00～  
エントランスホール

出席者：朝河貫一博士顕彰協会 代表理事 矢吹晋氏  
（横浜市立大学名誉教授）

朝河貫一博士顕彰協会 事務局長 糠澤修一氏  
（福島テレビ代表取締役会長）

早稲田大学文学学術院教授 甚野尚志氏

福島県教育長 鈴木淳一

等 21名



\*セレモニー後、甚野尚志氏による展示資料の説明

(5) 図書館員によるギャラリートーク

担当職員による展示資料解説を実施

開催日：6月9日（土） 7月22日（日） 8月5日（日）

参加者：3回合計 66名

3 記念講演「ふくしまから世界へ～国際人・朝河貫一の歩み～」

(1) 概要

早稲田大学文学学術院教授 甚野尚志氏を講師に招き、当館講堂にて記念講演を開催。朝河の生涯や比較法制史の研究に加え、「昭和天皇宛大統領親書草案」に代表される日米平和のための尽力などの偉大な功績について、豊富な写真や図を用いながらご講演いただいた。

当初の見込みを大幅に超える参加があり、関心の高さが感じられた。

(2) 開催日時 平成30年6月9日（土）14：25 ～ 15：15

(3) 参加者数 168名



(4) 参加者のアンケートから

- ・朝河博士の名前は知っていたが、具体的な功績とその内容については分からず、今回の講座で理解できた。
- ・朝河博士の余り知られていない部分が数多く登場し、博士の人柄がよくわかった。
- ・歴史の真実の一部を理解できた。



4 『朝河貫一資料目録』改訂版の発行及び刊行記念講演会の開催

(1) 『朝河貫一資料目録』（福島県立図書館/編刊 1992）を改訂

甚野尚志氏の協力を仰ぎ、書簡内容の解説や書簡を交わした人物の説明等を加え大幅に改訂し、より充実した内容とした。県内の図書館や関係機関に配布した。

刊行日：平成31年1月18日

発行部数：300部

(2) 甚野氏による「刊行記念講演会」を開催

期日：2月23日（土）14：00～15：30

演題：「書簡からみた朝河貫一の歩み」

参加者：82名



(地域資料チーム)

# 福島県立図書館所蔵「朝河貫一資料」の世界

～企画展「海を渡ったサムライ～朝河貫一没後 70 年記念展」より～

福島県出身の国際的歴史学者、朝河貫一（1873-1948）。彼は日本や欧米の有力者・知識人と交流し、その記録として膨大な数の書簡・日記を遺しました。その内容は学術的な内容からプライベートな報告までとさまざまですが、一流の歴史学者にして近代日本でも屈指の国際人であった朝河の歩みを一步一步感じることができる資料です。

今回は、当館で平成 30 年 6～9 月にかけて実施した「海を渡ったサムライ～朝河貫一没後 70 年記念展」の展示資料より、書簡を 5 点ご紹介します。



朝河貫一(1873-1948)

## 1. 1894 (明治 27) 年 10 月 28 日, 朝河 ⇒ <sup>わたなべくまのすけ</sup>渡辺熊之助

「請ふ此書を取て万人に示せ。生一の恥づべきなし」

当時、東京専門大学（現在の早稲田大学）に学んでいた朝河が、郷里の友人渡辺熊之助へ送った書簡です。抜群の成績を誇り、更なる勉学のためにアメリカへの留学を志していた朝河でしたが、渡米には多額の費用が必要でした。学費にすら困っていた朝河は、知人らへの借金を要請します。借金の書簡といえどその内容は卑屈なものではなく、自らの大望を滔々と説き、一片の卑劣もないことを堂々と伝えています。

最終的に、朝河は大隈重信・徳富蘇峰・勝海舟らの援助を受け渡米。1896（明治 29）年、ニューハンプシャー州・ハノーヴァー市のダートマス大学へ編入します。

## 2. 1900 (明治 33) 年 7 月 13 日, 朝河 ⇒ <sup>マーガレット ダイモンド</sup>Margaret Dimond

“My work in the Library is very quiet and is rather hard brain-work.”

（私が行っている図書館の仕事はとても静かな作業ですが、かなり頭を使う仕事です）

無事アメリカでの大学生活を始めた朝河。ダートマス大学学長ウィリアム・J・タッカーの厚意により授業料と寄宿代は免除されていましたが、個人的な支出は自分で賄わなければならず、図書館でのアルバイトの他、レストランのウェイター等をして生活していました。

マーガレットは朝河よりもかなり年上の文通相手で、111 通もの書簡が残っています。日々の暮らしの様子や友人関係、学問や日露戦争との関わり等が記されており、朝河のダートマス大学及びイエール大学大学院時代を知ることのできる貴重な資料となっています。

### 3. 1915 (大正4) 年4月4日, 朝河 ⇒ <sup>おおくましげのぶ</sup>大隈重信

「此要求に対する史的事情が説明せられ居らざる為に、其の或点につきては、日本の要求が殆ど独逸的に専断なり不当也と思う人士少なからず候」



大隈重信(1838-1922)

名門イェール大学の講師となった朝河より、当時内閣総理大臣であった大隈に対して送られた書簡です。朝河は1909(明治42)年に著書『日本の禍機』を日本で出版するなど、日本の東アジア外交における自制を促していました。この書簡では大隈内閣が1915(大正4)年に中国へ「21カ条の要求」を突きつけたことに対して、大戦の敗戦国であるドイツを引き合いに出し、強く非難しています。朝河の日本外交への憂慮はこの後も尽きることなく続くこととなります。

### 4. 関東大震災発生にあたり日本から届いた書簡

つほうちしょうよう よしのさくぞう わだまんきち  
坪内逍遙, 吉野作造, 和田萬吉 ⇒ 朝河

1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災は東京・神奈川を中心とする広範囲に被害を及ぼし、母校の早稲田大学や帰国の際に研究拠点とした東京帝国大学(現在の東京大学)も大きな被害を受けました。遠くアメリカの朝河へも早稲田大学の恩師である坪内、「大正デモクラシー」の立役者である吉野から被害状況の知らせがありました。さらに東京帝国大学図書館長・和田からは図書寄贈等に関する支援要請があり、アメリカ議会図書館へ支援を依頼しています。

### 5. 1933 (昭和8) 年9月16日, 朝河 ⇒ <sup>とくとみそほう</sup>徳富蘇峰

「武具なき人を殺害するものを以てその主義が忠誠なる故にゆるすべしと申すの類、日本の武士道にあるまじき卑劣のことと申すべき候」



徳富蘇峰(1863-1957)

『国民之友』『国民新聞』を主宰し、近代日本を代表するオピニオンリーダーとして活躍したジャーナリストである蘇峰。朝河とは青年時代から親交があり、渡米後も書簡を交わしていました。しかし、彼は1931(昭和6)年の満州事変に始まる日本軍部の東アジアでの動きを支持。朝河に対する書簡でもその意思を強く示すようになっていきます。年上の恩人に対し、朝河は丁重に、しかし非常に厳しい怒りをもって諫言しました。

当館ではこの他にも、太平洋戦争開戦阻止のために朝河が起草した「昭和天皇宛大統領親書草案」等、貴重資料を多数保存しており、電子画像で気軽にご覧いただけます。また、朝河に関する展示セットの貸出も行っておりますのでぜひご利用ください。

【写真転載元(朝河を除く): 国立国会図書館「近代日本人の肖像」】  
(地域資料チーム 阿部誠)